

第2回川口市青少年問題協議会 議事概要

- 日時：平成28年11月29日（火）10時～11時半
- 場所：議会棟2階 第1委員会室
- 出席委員（敬称略）：栗原会長、若谷委員、芝崎委員、船津委員、
中牟田委員、立花委員、請川委員、平田委員、
小柳委員、樋田委員、川島委員、新木委員
- 事務局：福田子ども部長、日高青少年対策室長、立花室長補佐、内田主査、
浅井主任
- 次第：議題
 - （1）「平成27・28年度川口市青少年問題協議会の報告と提案」
について
 - （2）その他
- 傍聴人の数：0人
- 会議資料：平成28年度第2回川口市青少年問題協議会資料

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 変更委員の紹介

武南警察署生活安全課長 新木委員 自己紹介

4. 本会議について

〈 委員の半数以上の出席により、会議が成立する旨確認 〉

〈 会議は公開であり、本日は傍聴者がいない旨確認 〉

〈 会議録を作成、公開する旨確認 〉

5. 議事

〈 会長が議長となり、事務局から議事進行役を交代 〉

【議長】

本会議の会議録を作成するため、会議録署名人を舩津委員、中牟田委員に願います。

〈 委員承認 〉

(1) 平成27・28年度川口市青少年問題協議会の報告と提案について

【議長】

議題(1)平成27・28年度川口市青少年問題協議会の報告と提案について、事務局に説明を求める前に、私から一つ提案させていただきたい。まず、タイトルの変更。前回までは、「提言書」ということをご了解いただいていたが、これまでの各委員のご意見、ご提案、コンセンサスから、資料のとおり、「報告と提案」という形にしたいと考える。平成26年度までは、市長が会長を務めていたが、平成27年度からは、市民の意見や提案をボトムアップで上げていく形になった。任期2年ということから、この会議の内容自体を報告事項とし、その中から光る言葉を取り上げ、提案などを作っていくという考えから、「報告と提案」という形にできればと、事務局側と相談した。

副題は、「青年リーダーの育成と地域の関わりについて」とし、我々の報告と提案が分かるようにした。「関わり」というより、「関わり合い」というようなところを含めた形で表現できればと考えている。この後、事務局から詳しい説明をしてもらうが、そのような形で、今回の資料が作られているということを予めご理解の上、皆様からご意見をいただきたい。

それでは、事務局に説明を求める。

〈 資料に基づき事務局から説明 〉

【議長】

まず、全体構成について、意見交換をしたい。資料の2「青年リーダーの育成のための取り組みについて」は、前回の会議では出なかった部分であり、詳しく載せているが、1の「現状と課題」は、前回も触れており、今回の資料には掲載していない。1には、中学生のボランティア活動のデータや、講習会を通して青少年相談員を確保していったというような資料が入ると考えてよいか。

【室長】

ご指摘のとおり、前回の資料に掲載した内容をもとに、更に皆様の意見を反映したものを、議題1として掲載させていただく予定である。

【議長】

全体の構成について、皆様からご意見をいただきたい。2については、これまでの取り組みを通して、青少年相談員（18～36歳）の確保と育成については一定の成果を上げているが、「青年リーダー」となると、地域が主体となって、中学生などを巻き込みながら取り組むという点が新しいので、改めて、「青年リーダー育成のための取り組み」について提案しながら、一つの章立てとしてまとめたい。

また、3のテーマ1からテーマ3は、各委員のコンセンサスが得られた部分だと思っている。テーマ1は、青少年の内面に働きかけ、意識を高めるということでもまとめたもの。青少年自身に意識があっても、地域に活躍の場がないといけないので、どのようにして活躍の場を提供するのかということテーマ2とした。「与え」という表現は上から目線なので、個人的には、「発掘」「提供」という言葉に置き換えたほうがよいと思うが、趣旨だけでなく、文言についてもご意見をいただきたい。

テーマ3は、青少年に活躍の場を提供した後、地域全体で、どう見守っていくのかということ。我々の得た知見としては、過去に、青少年相談員の活動が、彼らに任せきりになってしまい、周囲のサポートがなく、どのように進めていったらよいかという不安や、若い学生などは自分の趣味に走ったりして、求心力が失われてしまったことがある。そういったことを防ぐには、青少年活動において、幅広い地域で、大人が見守り、支え、次につなぐことの大切さと捉えてもらえればよいと思う。

何かあれば、ご意見をいただきたい。

〈 意見なし 〉

皆様から同意の頷きをいただいているので、文言の整理は、報告と提案の2と3ですることとして、全体構成については、このような形で進めるということではよろしいか。

〈 異議なし 〉

それでは、続いて、報告と提案2について事務局に説明を求める。

〈 資料に基づき事務局から説明 〉

【議長】

地域で青年リーダーにどのような場を提供するか、地域でどう支えるかということが、我々のコンセンサスであるが、今回は、南平地区の公民館や青少年育成協議会、中学校を巻き込んだイベントを一つの試みとして紹介させていただいた。

資料は大きく(1)と(2)に分かれるが、(1)の取り組みの状況に関して、何かご質問はあるか。まず、私から質問するが、青少年相談員の活動状況、会議の時間や場所、支える体制はどうなっているか。

【室長】

会議は月1回定めて、市の担当職員1名がオブザーバーとして参加し、意見も出しながら支援している。会議は、メンバーが集まれる夜の時間帯、19時から開催しており、青少年センターをはじめとして、集まりやすい場所でおこなっている。

【委員】

青少年相談員協議会は、川口市青少年団体連絡協議会に加盟していないのか。

【室長】

昨年度まで青少年相談員が1名であったため、休会中となっている。

【委員】

先ほど、取り組みの説明の中で話があった、芝中央小学校のPTAのバザー会場に私も行ったが、昔遊びの団体の中に、青少年ボランティアはいたのか。

【事務局】

バザーに協力していた昔遊びの団体は、「かるがも会」という団体だが、中心メンバーが川口市青少年団体連絡協議会の事務局長であることから、青少年相談員も一緒にやらないかと誘っていただき、実現したものである。

【委員】

とても良い試みだった。できれば、他の学校のPTAのバザーにも関わりを持てれば良いと思う。ただ、せつかくの青少年相談員の存在が、全く見えなかったのもっと分かる様にしたらよいと感じる。

【事務局】

相談員も初めての経験であったので、終わった後の反省会で、青少年相談員の幟やジャンパー等を作ってアピールしていく必要があるのではないかとこの意見が出た。今後検討していきたい。

【議長】

青少年相談員に対して、予算措置はどうなっているのか。

【室長】

川口市青少年相談員協議会の運営や活動の経費に対し、年間10万円を限度に助成する用意がある。

【議長】

資料(1)の青年ボランティア養成講習会は、市が主催で、青少年対策室が実施しているものか。

【室長】

青少年対策室の主催で実施している。

【委員】

七つの祝いの会場で、知らずにブースを見たら、とても楽しそうに活動している若者たちがいた。彼らがボランティアだということは分かったが、どうい
うボランティアかわからない。「青少年相談員」というネームバリューが届いて
こない。この会議の席札の様に、名札や広報で工夫していくと、その子たちの
活動の場所や居場所になると思う。

【室長】

委員の方々の仰るとおり、今後、PRを大きくし、宣伝をしていく努力をし
ていきたい。

【議長】

要するに、支援体制ということだと思う。支援体制とは、「関わる」ではなく、
「関わり合い」であり、お互いができることをどう考えていくかである。

【委員】

鳩ヶ谷子ども会のジュニアリーダーなどの活動を見ても感じるが、お母さん
たちは、「この人達は何かしら」と思っている様子。キャンプの引率でも、ジュ
ニアリーダーは一緒に行くが、父兄は、この人たちについていって大丈夫なの
かと、一抹の不安はあると思う。そういうこともあり、常日頃から、ジュニア
リーダーを押しようにしている。総会の時などは、中高生には、きちんと制服
を着てくる様に伝えている。常に父兄からどのように見られているか、気をつ
けるように教えた。

おしゃれをしたい年頃でもあり、その格好で活動ができるのかというような
子もいる。その時々に必要なTPOを教えながら、この子達に安心して任せら
れるということを周囲に伝えていく必要もあると思う。

【議長】

保護者の立場、見方に立って、リーダー養成をしていく必要もある。だから
こそ、支える体制が必要というところだと思う。

【議長】

続いて、(2)に移るが、12月11日のクリスマス会について、スタッフは10名程度で、公民館、青少年育成協議会と連携して実施する予定となっている。今回は、地元の中学生にも参加を呼びかけるため、育成協議会と中学校のインタビューを資料に掲載している。インタビューの内容等を含めてご意見をいただきたい。

【委員】

育成協議会のインタビューの中で、中学・高校と関わりがないというのは、学校区やその人の立場によるものと感じる。また、中学校のインタビューの中で心配なのは、学校が生徒に事業への参加をアナウンスする際、保護者がナーバスになっている部分があるということ。例えば、部活に行く途中の事故等については、学校で加入している保険の対象となるが、このクリスマス会の場合は対象にならない。学校がアナウンスした場合は、学校の責任になってくる。目的地への移動途中の怪我や事故等への対処については、事前に考えておいた方がよい。

【議長】

大きな指摘が2点あったと思う。怪我や事故への対応と、その前の、各地域によって学校との関わり方が違うという指摘。上手くいっている事例などがあれば、教えていただきたい。

【委員】

知っている範囲での話だが、安行地区などで学校が荒れていた当時、ある校長先生が、「うちの生徒は違う」と正義感に燃えて、学校から盆踊りなどの地域の行事に手伝いとして参加した。今では、地域との関わりで表彰される事例もある。青木地区でも、学校の周年事業に、町会から「お金を使ってください」ということもあり、関心が高いと感じている。ただ、どう関わっていけばよいかと、町会のほうが学校に気を使っているように感じる。川口市全体としては、学校と地域との関わりはあると思う。

【議長】

安行中学校の取り組みについては、昨年度の協議会の中でも、学校と地域が連携して取り組む事例の紹介をいただいた。

【委員】

南平公民館子どもクリスマス会については、以前、私の地域で、中学生がラジオ体操に参加していることを紹介したが、午前10時から12時など、今の中学生は色々な活動をやっているため、探すのは大変なのではないかと思う。

【委員】

元郷地域でも、中学校・高校と地域との関わりはそれなりにあると思う。先

ほど、時間帶的に中高生は忙しいのではないかとのご意見があったが、まさに、その通りだと思う。学校がアナウンスをすると、責任を負わなくてはならなくなるが、それでも参加させたい。そこに私達が介在していくことが、地域で子ども達を育てるということに必要なのだと思う。

今の時期、部活をやっている中学1・2年生は時間がないが、3年生は受験期で、勉強に集中している子、また、集中しきれない子もこの時期いる。クリスマス会のチラシを何人かの3年生に渡したが、喜んでいる子もいた。なぜなら、午前中少し早起きして、子ども達と一緒に遊んで自分も楽しくて、地域のためになるボランティアをすることの成果を自分の経験値として結びつけられるなどの気持ちは、実は結構高い。ただ、会場まで足を運ばせるのが大変だったり、保護者からは、勉強させたいのに、なぜ呼ぶのかという意見もある。そこは、事前説明が必要であり、保護者と生徒相互に納得できることが必要かと思う。

今後の話だが、例えば、チラシ作成を学校の美術部やパソコン部にお願いすれば、素敵な物ができるし、自分の作品なら、見に来たりもするだろう。

青少年相談員のビデオを高校生に撮ってもらっても良い。その後の編集などもお願いすれば、高校としても、ボランティアのポイントとなる。今は映像の時代なので、活動の様子をビジュアルで訴えていくことは、効果的だと思う。広報、参加、報告の3点で関わる方法もよいと思う。

【委員】

今の意見はとても良い。環境、土壌もあり、戦略的にも素晴らしく、立ち上がっていく案だと思う。こういうものが、他の地域にも広がり、様々な地域でできるようになればよい。「おやじの会」が良い例である。確か、上青木で立ち上げ、テレビに取り上げられて、それが起爆剤となって各地域に広がった。それと同じようなパターンとなるかもしれない。

【委員】

ただ、学校には前もって予定を伝えておく必要はある。校長先生等の理解があれば、少しは融通を利かせられる部分もあるので、委員の皆様が学校に関わる機会があるところで話していただくことが必要ではないか。

【議長】

ここでの話題は、次の議題に繋がるので深掘りしたい。資料の中の青少年育成協議会インタビューの中で注目する3点として、まず、事業は公民館の企画力次第であるということ、学校を通じて半強制的に参加させるぐらいがよいということ、最後に、コーディネーター役として主任児童委員がいるということである。市内に公民館は34あり、川口は10地区に分かれるということは、1地区あたり3・4館の公民館があるということだが、それを踏まえてご意見

をいただきたい。

【委員】

公民館で積極的な事業をとということだが、私の印象では、学校と地域の関係はかなり薄いと思う。町会の会員数も減っている現状で、学校との関わりを求めていくのは難しい。昔と違い、防犯面から部外者の立ち入りを禁止するなど、仰々しい時代。地域と学校との気軽な連携は互いに難しい。そこを仲介するのは公民館ではないか。私の地元でも、公民館、町会、自治会が音頭を取ってお祭をしている。まだ数回しかできていないが、学校に周知し、今年はだいぶ子ども保護者が来るようになった。校長先生やPTAに周知したことが効果があったのではないかとの話だった。そこが良いコミュニケーションの場になって、学生と地域に保護者も加わる。保護者は地域とのかかわりを持ちたがっているので、定期的なお祭りには、パイプ役として一番よいのではと感じる。ただ、立ち上げる人は、かなりエネルギーが必要であるし、誰か一人やってくれる人を期待するだけでは成り立たない。そこで、市で斡旋というか、音頭を取って関わってもらえると、地域全体で考えられることになると思う。

【議長】

公民館を事務局として、青少年育成協議会が組織され、青少年育成協議会には町会・自治会長や各種団体も入っている。そういう意味では、青少年育成協議会が、その役割を担っていけるのではないか。

【委員】

地域差があると思うが、育成協議会は名前だけで、活動はあまりやっていないところもある。同様に、子ども会も盛んでないところがあるなど、地域によってかなり土壌が違うので、地域別戦略を考えないといけないのではと感じる。川口市全体で同じマニュアルに当てはめても、一方は取り残され、一方はよい形に進んでいくことになりかねない。

【議長】

青少年育成協議会の委員の任期は。

【室長】

それぞれの選出母体の役職についている期間であるが、選出母体がない場合は2年となる。

【委員】

会長が注目する3点のうちの1点目だが、基本的に、公民館の事業は前例踏襲、当然、地域の方に了解は得ているが、去年の事業のままということが多く、活発に事業を見直すには厳しい印象がある。ボトムアップ式に新しい事業を入れていくという体制、新しい事業を提案できるような形にすればよいのではないかと思う。

2点目の、半ば強制的に子どもを参加させるということについては、先ほど話した安行中学校の成功事例もあるので、持って行き方次第だと感じる。3点目については、主任児童委員は、目には見えない、困っている家庭の子どもをなんとかしてもらおう方々であり、ちょっと業務が違うのかなと感じる。

【議長】

主任児童委員と民生委員では、役割は違うのか。

【委員】

民生委員というと、高齢の方を対象にする印象があるかもしれないが、民生児童委員というのが正式名称であり、児童にも関わっている。その中で、主任児童委員は、子どもに関する事件が多発する中、例えば、学校や地域と連携する場合など、高齢の方より子どもに関してもっと情報を知り得る人が間に入った方が良いということで、存在している。業務としては、子どもに特化しているが、関わることは民生委員と同じである。例えば、見守り家庭の子どもの具合が悪い時など、主任児童委員に連絡が来たりする。ネグレクトや暴力などの情報も様々なところから入ってくる。基本、地域の中で児童に関することは、全て見ていく。学校応援団やコーディネーターもいるので、地域と学校に関わる方の見守る目が多い方が良く、広い視野で見ることができる方が良い。

【議長】

中学校のインタビューの中で、「自由参加なら大丈夫ではないか」「委員会と協力しながら実施する方法がよいのではないか」という部分があるが、今日の会議に欠席されている委員から、この資料に目を通した上で、事前にご意見をいただいているので、事務局より報告していただきたい。

【事務局】

欠席の委員からは、「地域の立場、学校の立場、どちらも理解できるが、お互いに受身である印象を持つ。例えば、盆踊りは地域のイベントなので、学校側から見れば、地域から参加を呼びかけてくれれば良いということになる。話し合いの場を持って、お互いにできることを出し合うのはどうか。また、部活を新しく作るのは難しく、地域と関わるということで組織を新たに増やすことも難しい。それよりも、まずは地域と学校との話し合いであると感じる」とのご意見をいただいた。

【議長】

引き続き、5ページの「3 協議の経過と提案」について、事務局に説明を求めらる。

〈 資料に基づき事務局より説明 〉

【議長】

今までの議論を集約して3つの柱を作り、この形となっている。テーマ3の

提案の部分は、「学校や地域、行政、青少年団体等」となっているが、順番も大切であると感じるので、最初に「地域」が来て、次に「青少年団体」、「学校や行政」という形がよいのではないかと思う。このように、言葉の順番についても、ご意見をいただければと考えている。

【委員】

テーマ3については、先ほどのインタビューの様に、地域と学校とでは立場も意見も異なる部分もあるが、まずは、保護者の教育がなっていないと思う。子どもが挨拶しないのは、保護者がいけないという意見もあり、ここに「保護者」の文言を加えたらどうかと思う。また、テーマ2の学校PTAの行事の活用とあるが、例えば、PTA連合会の会議で青少年相談員のブース運営の話をしてみてはどうか。本協議会には、PTA連合会の会長もいらっしゃるので、来年度のバザーや模擬店などへの出店等の提案を通じて、宣伝を行うこともできるのではないかと感じた。

【委員】

「話し合いの場を」というご意見があったとのことだが、各学校には、学校評議委員が評価する場合があります、学期に1回は会議があるはずである。中学校によって多少異なるかもしれないが、ローテーションで、町会・自治会長が参加している。その会議が、地域と学校が関わる提案の場にもなる。地域でやって欲しいこと、学校でやれることの提案や調整の場が、そこで作れるのではないかと感じる。

保護者の理解ということでは、昔は、町会の集まりにも、子連れで、子どもを近くで遊ばせながら参加していた状況があり、子どもは、親の背中を見て、地域と関わるのは当然と思って育ってきた。また、保護者の意識改革の最大のチャンスは、幼稚園入園時や小・中学校入学時だと思う。自分の子どものためなら、自分もやらなくてはいけないと、どんな保護者にも思ってもらえるので、そういったチャンスを利用すれば、理解を深めることができると思う。

【委員】

先ほど、学校と地域、どちらが積極的に動くかという話があったが、私は、学校側であると思う。学校長が積極的に地域に関わりなさいとあって、町会の運動会にも、多くの先生方が参加している例がある。公民館の文化祭にも参加している。最近では、町会の婦人部が学校の家庭科の授業を見に来たり、公民館の茶道部に子ども達が体験に行ったりするなど、学校と地域との関わりがとても深くなった。地域側がいくら言っても、学校の先生が動かなければ、何も始まらない。逆に、学校が言っても、地域がその気にならなければということもいえるかもしれないが、どちらが先かといえば、「地域の皆さんで子ども達を見守ってください」という学校側の発信力の強さが、地域を動かすのだと思う。

【議長】

確認として、この「3 協議の経過と提案」が、報告と提案の骨格となる。ここで、テーマ1・2・3のタイトルと、各3行の提案については、文言は少し変わるとしても、このような方向で作成してよいか、ここで確認をしたい。

〈 異議なし 〉

【議長】

先ほど、幼稚園年長児を持つ保護者の学習機会というお話があったが、もう少し詳しく伺いたい。

【委員】

以前、私が、主任児童委員や学校応援団の活動について話したいと校長に相談した際、「それなら、就学支援の機会に話してもらえれば」ということで、話させていただいた経験がある。それ以外でも、主任児童委員や学校応援団として懇談会などに参加し、そこで話をすることもできると思う。

【議長】

他市の事例だが、毎年10月頃、来年度小学校に入学する子どもを対象にした健康診断があるが、その場で、保護者を対象に、約1時間の学習会を実施しているところがある。地域の活動について情報提供できるよい機会であり、テーマ3とも深く関わるのではないかと思う。次回の会議では、これらを文言にしたものを資料として出したい。

(2) その他

【議長】

議題(2)その他のうち、青少年を取り巻く事例紹介について、川口警察署より説明をお願いします。

【委員】

子ども達を取り巻く環境についての報告をさせていただく。刑法犯少年の検挙件数と補導件数は、昨年に比べ、非常に減少しており、全県的に右肩下がりとなっている。具体的な数字(上半期のみ)を申し上げますと、当署管内の刑法犯少年の検挙、補導状況は、昨年49件に対し、今年は28件で、43パーセントほど減少している。そのうち、中学生は、昨年28件、今年は7件と、約75パーセント減少している。罪種別で一番多いのは窃盗で、28件から19件と、32パーセント減少している。

また、街頭補導の関係では、管内で昨年一年間で1,631人補導している。上半期で見ると、全県的に減少傾向ではあるが、昨年が当署管内で821人、今年は618人で、24.7パーセント減少している。特徴的なものとして、昨年の同時期と比べると、家出や無断外泊が9人から19人と、111パ

一セントほど増加している。家出や無断外泊中に犯罪行為に巻き込まれたり、逆に犯罪行為に及んだりという状況も見られる。補導の状況を自分なりに分析したところ、川口市に在住する、特に高校生は、川口警察署管外で補導されている傾向が多い。高校生になると、浦和区や南区、戸田市などで、川口警察署管内に居住する高校生が補導される傾向にある。補導場所は、在籍高校近くの公園や蕨駅などが多く、他署管内で遊んでいる最中や、帰る途中に補導されている傾向があった。

補導した子ども達に聞くと、当署管内の川口駅や西川口駅は大人の街としてのイメージが強く、両駅での補導は少ない状況にある。共働きや片親など、家庭環境の事情により、少年への関心が希薄となり、家出が増加している傾向があるのではないかと考えられる。

ただ、前回も申し上げたが、今のところ、地域の皆様のご協力のお陰で、刑法犯を初め、少年の補導状況も全体的に右肩下がりになっている。今後とも、ご協力をお願いしたい。

【議長】

(2) その他の2つ目、今後の会議の予定について事務局に説明を求める。

〈 資料に基づき事務局より説明 〉

【議長】

以上で予定していた議題が終了したことから、議長の責を解かせていただく。

5. 閉会

平成29年3月7日

会議録署名人

船津 由徳

会議録署名人

中牟田 雅子